

- 23面 第15回造園技術フォーラム 仙台で開催
3面 【学会の目・眼・芽】造園学会・学術刊行物の今後
4面 【ふるさと自慢】我が故郷、錦帯橋と岩国城
【緑滴】音楽人生

第50回全国造園デザインコンクール

応募要項を発表

全国造園デザインコンクールは、造園のデザインと製図技術の向上を目的に昭和50年にはじまりました。その後、応募課題を拡充するなど、美しい国土と安心・安全で快適な生活環境を実現する多様な造園空間を対象に、デザイン、設計技術、表現手法の向上を図り、次世代を担う青年の造園に対する興味を醸成し、入職促進に寄与することを目的として毎年実施しています。

第50回全国造園デザインコンクールは、日造協の主催で(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会と共催し、文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校長協会、(公社)日本造園学会、(公財)都市緑化機構の後援(申請中)を受けて実施します。応募は、高校生の部と大学・一般の部の2つで、造園に関する科目履修者や造園に興味を持つ高等学校、大学、大学院、短期大学、専門学校等の生徒・学生及び造園の設計・施工管理などに従事している方を対象に応募を受け付けます。

応募課題は、すべての対象者向けのA「住宅庭園」(個人住宅の庭園) B「街区公園」(街区公園) C「商業施設」(商業施設の屋外空間) D「実習作品」(作庭、駅前・街角などの広場、緑道、校庭緑化、植物を使用したモニュメント・ディスプレイ(生け花、フラワーアレンジメントは除き、高校・大学などの生徒に限る)の4部門と高校生1・2年生を対象としたE「緑化フェア(みどりの広場)プラン」部門で構成しています。

なお近年のコンクールは各部門とも、デザイン、設計技術、表現手法だけでなく、社会情勢の変化などを踏まえた新しいアイデアを取り入れた作品を加点評価することとしています。応募作品の表彰は、高校生の部で最も指導力の優れた高等学校を対象とする「文部科学大臣賞」(1校)、全作品の中で総合的に最も優れた作品「国土交通大臣賞」(1点)をはじめとする特別賞を全8点選出するほか、高校生の部、大学・一般の部ごとの「入賞」「佳作」について表彰することとしている。

第50回コンクールの応募期間は、令和6年1月4日から1月12日(当日消印有効)まで。作品の審査は、令和6年1月21日に行われ、2月1日に審査結果を日造協ホームページで発表する。

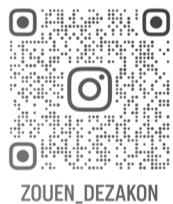
なお、表彰式は令和6年2月10日(土)東京グリーンパレスでの開催を予定しています。

人事異動

【国土交通省人事】(7月11日) 道路局道路交通管理課長 = 大井裕子(都市局参事官) 都市局参事官 = 井村久行(大臣官房付)



リーフレット(デザイン・宮師鈴)



全国造園デザインコンクールのインスタグラムを開設しました。ぜひ一度ご覧ください。

また今回、さらにより多くの方々に知っていただくために、周知用リーフレットを作成しました。こちらは第40回コンクールで国土交通大臣賞を受賞し、現在イラストレーターとして活躍されている宮師鈴さんにデザインいただきました。今回もより多くの作品の応募を期待しています。

令和5年度国土交通省大臣表彰 日造協6氏受賞 多年造園工事業に精励・業界の発展に寄与

国土交通省は7月10日付で、令和5年度の国土交通省大臣表彰受賞者を表彰した。

日造協関係者からは6氏が都市計画事業関係で「多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として(地方)業界の発展に寄与した」ことから、国土交通大臣表彰を受賞した。

表彰式は7月10日、東京都千代田区霞が関の国土交通省共用大会議室で行われ、今年度は230人、3団体が表彰された。

(都市計画事業関係) 伊藤 幸男(65歳) 東京都世田谷区

樹林

(一社)日本造園建設業協会副会長 みずえ緑地(株)代表取締役 正本 大



学校と造園人

普段、小学校等に入出入りする機会が多くあることから、そこで感じていることを書かせていただきます。

平成13年度から「総合的な学習」が開始されて以降、学校教育の現場にこれまで関与していなかった私の活動にも大きな変化が起きました。

以降約20年に亘って、「総合的な学習」のゲストティーチャーとして県内の小学校を中心に授業を行っています。

そこでは、樹木観察や樹木を通じての平和学習、水環境学習、花育を中心とした学校緑花等、さまざまなフィールド学習を取り組んできました。机上では体験することのできない、五感を刺激するよう構成に配慮しています。

永年続けている中で、このような学習に対応できる人物へのネットワークが十分でないと感じます。

学校のニーズがありながらも、誰に頼めば良いのかとの相談を受けることも少なくありません。また、造園に関わる人の教育現場への参画も少ないように感じます。

普段物言わぬ緑に対する気づきや驚き、そこから展開する環境との繋がり等を楽しく伝えるには、造園業界の方々の力が欠かせません。小さな緑のファンも少しずつ増えていくものと考えます。

もう一つは学校緑化です。学校では緑や環境の大切さを教えられる一方で、学校内の緑の取り扱いに対して、学校によって大きく差があるように感じます。

樹木が大切にされている学校も多々ありますが、落葉樹等は管理上の問題もあり、ぶつ切りの憂き目にあっている場面を見かけることも少なくありません。

そこにはシンボル樹的な樹木の存在の有無や緑に対する考え方が継承されているか等が大きく関係しているようにも思えます。

例えば、どの学校でも桜が植栽されていますが、ソメイヨシノの植栽が中心となっている学校が大半です。

私が子どもの頃には入学式と桜は当たり前前の風景でしたが、近年では地方によっては、入学式の頃にはすでに葉桜となっていることも多くなっています。思い出の一場面に花があることは特に大切です。

また、歴史ある学校では、所狭しと記念樹が植えられ、互いに被圧しあい生育不良となってしまっていたり、今の子どもたちが使うスペースを奪ってしまっていることも見受けられます。

学校の先生方も異動がありますし、このような樹木の取り扱いに対しての考えをめぐらせる余裕が持てず、手が付けられていないのが現状です。

そこでも造園人の力が必要されています。

学校緑化に限ったことではありませんが、植栽されて久しい緑地については、環境・景観・機能等の面からも、これから求められる将来像を見据え直し手を加えていくことの必要性を感じます。

学校における思い出に残るシーンの演出や、校舎が建て替われど後世に残っていく樹木の配置等について、私どもからもっと提案していかなければなりません。

今一度、母校や身近にある学校へ訪ねて行ってみてください。それが未来を担う子どもたちの環境づくりの一步となります。

高島 宏光(63歳) 宮城県仙台市 (株)高島泉樹園代表取締役
鶴田 忠嗣(61歳) 佐賀県唐津市 (株)鶴松造園建設代表取締役



嘉屋 幸浩氏



鈴木 義人氏



伊藤 幸男氏



大塚 真一氏



高島 宏光氏



鶴田 忠嗣氏

(株)日比谷アメニス代表取締役社長 大塚 真一(57歳) 長崎県大村市 (株)琴花園代表取締役 嘉屋 幸浩(56歳) 北海道札幌市 (株)園建代表取締役 鈴木 義人(62歳) 東京都墨田区 (株)柳島寿々喜園代表取締役

第15回 造園技術フォーラム 仙台で開催

日造協は、「第15回造園技術フォーラム」を全国都市緑化仙台フェアの開催に合わせて、5月31日に仙台市青葉区のせんだいメディアテークで開催しました。

造園技術フォーラムは、会員企業や造園学会が実施してきた造園技術に関わる調査研究の成果を報告し、情報を共有することで、会員企業のみならず、造園業界の技術力の向上を目指すために実施しており、フォーラム後は、造園技術に関わる関係者の意見交換のために交流会も開催しました。本号では発表の概要を紹介します。

日造協会員の方は、会員専用サイトの「グループウェア」「共有フォルダ」「100[技術・情報資料]」「02-(本部)造園技術フォーラム」で、当日の資料をご覧いただけます。



フォーラムの冒頭あいさつする和田新也会長

当日は午後1時より、造園技術フォーラム部会の河野友和氏を司会に、和田新也会長が開会に当たり「全国から多くの方にお集まりいただくとともにオンラインで視聴されておられる方も多数いらっしゃり、誠にありがとうございます。こ

うして皆様方とフォーラムを開催できることを嬉しく思っています。また、フォーラムは多くの方々のご協力によって開催されており、本日も日本造園学会から発表者として入江彰昭理事、講評を柳井重人会長にいただくこととなっています。

造園施工業界では多様化する工法や新たな施工技術などにより、知識の習得が必要不可欠となっています。ご参加の皆様には本日得たものを今後にぜひお役立ていただければと思います」とあいさつ。

その後、第1部として地元東北総支部をはじめ5総支部、日本造園学会からの発表と講評をいただき(別掲)、第2部では東日本大震災復興祈念講演「奇跡の花からのメッセージ〜一輪の白い花から学ぶ人と命の繋がりと行動〜」を(一社)菅原淳一氏 Bird's-eyeの菅原淳



菅原淳一氏



結城彰彦氏



木村博彦氏



正本大業委員長



伊藤幸男技術委員長

一氏、現在開催中の仙台フェアについて、第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会主幹兼出展・協働推進係長の結城彰彦氏、来年開催の川崎フェアについて、川崎市建設緑政局緑化フェア推進室長の木村博彦氏、仙台フェアで受賞作品を実際に作庭した全国造園デザインコンクールのみどりのプラン賞についての紹介を日造協事業委員長の正本大氏が、技術委員長の伊藤幸男氏のあいさつで午後5時過ぎに閉会しました。

また、交流会はホテルメトロポリタン仙台に会場を移し、午後6時に開会。主催者を代表して、古積昇東北総支部長があいさつ。伊藤幸男技術委員長が乾杯を発声、交流の場となり、途中、次回開催地より田口正典神奈川県支部長が川崎フェアへの協力を求め、石出慎一郎東北総支部事務局長が伊達の一



古積昇東北総支部長



田口正典神奈川県支部長



石出慎一郎事務局長

植栽基盤調査の重要性

【東北総支部】宮城県支部

東北緑化環境保全(株) 小嶋 秀是

植栽基盤調査に実際に携わったことのある人は少ないかもしれないが、その重要性について〈基礎・実践・啓発〉の3部構成でお話したい。

〈基礎〉として、樹木が弱る原因、植栽基盤の定義、根の伸び方、樹木に関する誤解について頭に入れておくことと理解が早まると思う。〈実践〉として、最低限の調査項目である物理性(土層構造、土壌硬度、透水性)、化学性(pH・EC)を

調べるため、4つの必要な器械①長谷川式大型検土杖、②長谷川式土壌貫入計、③長谷川式簡易現場透水試験器、④pH・EC測定器、4つの資料①土壌図、②植栽基盤整備ハンドブック、③緑化樹木ガイドブック、④樹木根系図説を準備してほしい。現地調査では対象エリアの代表的な調査結果が得られそうな場所の選定、準備した器械と資料を使って調査結果からどんな改善を提案するかが技術者

の腕の見せどころだ。

しかし、調査費用や改善の予算がない【コスト】、植栽基盤診断士の資格者が少ない、調査の義務付けがない、枯補償を免れない【制度】、調査が難しい、報告書・提案書を書けない【技術力】、植栽直前に調査依頼され時間がない、調査を見直さない【認識】といった面での課題が多いことから植栽基盤調査が普及していないのが現状だ。

そこで、①調査器械を買うまたは借りて、②まずは3回調査して苦手意識をなくし、③調査結果・提案内容を経験者に見てもらい、④余裕をもって植栽基盤診断士

を受験・合格し、

⑤実際の植栽計画において積極的に意見を出すことを〈啓発〉として提言したい。樹木も土も分かるマルチスキルを身に付け、これまでの勘と経験だけでなくデータも加えることで、植栽基盤調査を普及させ、造園技術に対する信頼を確かなものにする一助にしていきたい。



北国における屋上緑化事情

【北海道総支部】(株)横山造園 吉田 巧

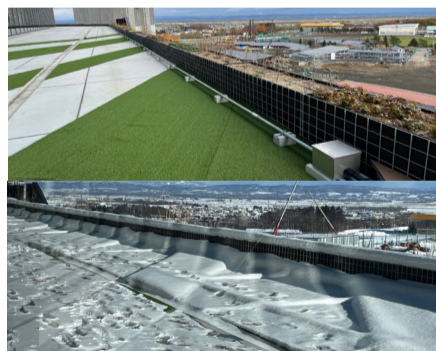
北海道の屋上緑化件数は首都圏と比べて少なく、これは少ない年で70cm、多い年で1mの積雪が影響している。

そのため雪国の屋上緑化は、積雪を懸念し樹木を植えることが少なく、芝生や宿根草が多く、既存の建物に対しての屋上緑化が多いことから耐荷重を考え、設計・施工が行われている。

2023年3月オープンした北海道ボールパークの球場「エスコンフィールド北海

道」では、2022年に全部で8カ所のプランター植栽による屋上緑化を行った。

プランターは、外から見たときに緑が見えるよう各屋上の腰壁に合わせ、高さ0.5～1.1m、奥行0.5、長さ2mのプランターを屋上の外側に設置。アジサイ、ヘデラ、フウチソウ、カレックス、ホスタ、アルケミラモリス、ラベンダー、セージの8種類を日中の日陰や日向を想定し、施工したが、すぐに積雪となった。



施工後すぐに積雪が始まり真っ白にこうした状況だが、札幌市内では数年前から再開発事業が進められ、設計で屋

上緑化が認めら

れたことから、今後多くの再開発で屋上緑化が取り入れられることが期待され、首都圏のような大規模な屋上緑化を成功させ、北国の屋上緑化を確立したいと願っている。



「にいがた2km」フラワーフェスタの取組み

【北陸総支部】新潟県支部 グリーン産業(株) 松田 悠、長谷川 均

「にいがた2km」とは、新潟駅と万代広場リニューアルに合わせ、緑あふれる人・モノ・情報の拠点づくりとして、市の都市軸(約2km)を再整備するもので、



中心の信濃川を挟んで、新潟駅・万代地区と古町地区を歩いて楽しいまちにすることになる。

これにともない令和4年10月1日から10月30日を開催期間とする「にいがた2kmフラワーフェスタ」開催業務が新潟市土木部みどり政策課から公募型プロポーザルで行われ、イベント会社とPR会社と私たちで受注した。

行った内容は、新潟駅構内での①花装飾で通路にプランター設置、②体験イ



ベント。③市内8区での立体花壇設置。NEXT21での花装飾とイベント、④道路部分花修景(プランター16基、協賛プランター10基)、⑤同時開催関連イベントとして、旧新潟駅前通や東大通で"人中心の空間づくり"社会実験を行い、歩行者通行量34.3%増で、花装飾は好評。街並みの緑は大切、来年も開催して



欲しいとのアンケート結果を得た。今後は2025年に新潟駅及び駅前広場が完成し、利用変化に合わせ、駅前通りの車線を減らし歩道・緑地を広げる方向での空間再構築も検討中。これからもみどり豊かで歩いて楽しく居心地のいい道路空間づくりに取り組んでいきたい。

「鎮守の森」整備事業 山王総本宮 日吉大社

【近畿総支部】滋賀県支部 (株)植 杵 上田 誠

山王総本宮・日吉大社は、全国に約3,800社ある日吉・日枝・山王神社の総本社で、2,100年以上の歴史があり、国宝などの文化財が散在し、境内3,000本のモミジは紅葉の名所になっている。

日吉大社は、平成21年に保存管理・環境保全計画書を作成。景観や安全を懸念し、適切な管理が望まれるとしながら具体的な対応はしていなかった。

これは樹木や石そのものが信仰の対象

で、森林生態学の観点、文化財保護法、自然公園法、森林法、古都保存法等の法規、参拝者・利用者に配慮するとどう手を付けていかなかったからだった。

このため、日本全国の神社を調査、事例を収集し、管理保全計画書を基に樹木保存・整備計画を作成した。しかし、信仰や生態・文化財・実績不足からなかなか承認が得られず、参道に被る枝、本殿に被る枝の剪定のみを行った。その後、



④整備前⑤整備後 陽が当たり風が通る鶴岡八幡宮で大銀杏倒木が発生し、危険木の伐採が試験施工として認められ、結

果が良好であったことから、大型機械による本格的な伐採を実施。建築物や石垣など、文化財を保護するためにランドスケープ的管理の重要性が理解された。

国内には多くの鎮守の森があり、同様の課題を抱えている。今回の発表がその解決の一助となることを祈念している。



ハッ場ダム関連造園工事を通じて考える造園の役割

【関東・甲信総支部】群馬県支部 (株)山 梅 堀金 哲也

「H30 勝沼水辺公園」⑥「R1 長野原地区上面」⑥の2つの整備工事を通じ、私が感じた造園の役割をお話したい。「地域がイキイキするように」では、地域住



民と一緒に桜の苗木を植えて育てる取り組み「やんば1万本桜プロジェクト」を補助し、地域の観光名所づくりのサポートとして、植栽環境の調査・提案、公園工事でのサクラの追加植樹、シンボルツリーの寄贈などを行った。

「緑がイキイキするように」では、ダム工事で切り崩された山間部の植樹が芳

しくないとの相談を受け、原因調査・設計提案、施工を一貫して行った。植生管理士、植栽基盤診断士によって、苗木調達地からの環境変化、排水不良による根腐れ、カモシカの食害が原因であることを突き止め、苗木調達後の気温順応、植栽基盤改良、害獣侵入防止柵の設置を提案。施工を行い、順調に生育している。「社員がイキイキするように」では、担当社員の孤立、現場状況の情報共有、社内蓄積の知識経験の共有、コロナ禍による「非接触」の課題を解決するため、現在ではあたりまえになったが、社

内 SNS や WEB 会議、ドローンと WEB 中継を合わせた上空景観パトロールなど、DX で社内コミュニケーションを向上させた。

このように造園は、地域や緑、自分たち社員をイキイキとすることができる。これからも造園の役割を發揮し社会を盛り上げていきたい。



ランドスケープ作品選集について

(公社)日本造園学会理事 東京農工大学地域環境科学部 地域創成科学科 教授 入江 彰昭

作品選集は日本造園学会が隔年発行し、30年間で754作品を掲載している。

1992年の1号はビオトープ、環境保全といった作品が多いが、2022年の最新号は公園にとどまらず、民有地の作品も多く、多くの人とコラボした空間づくりになっている。講評で、阿部伸太選考委員長は対象とする空間はますます多岐にわたっていると、選考委員の秋田典子先生は作品をもっと幅広く多くの人に

知っていただき、全国のランドスケープ作品を見て欲しい、伊藤弘先生は空間と人の関係づくりがランドスケープ作品と指摘。春田章博氏は最前線の仕事を見ることができ、造園の特徴はエイジングによる寄与が大きい。村上修一先生は変わらないことの重要性を示し、私はデザインの必然性を知るためにも作品選集を手現場を訪れて欲しいと記した。

また、これまでの作品選集から、造園

家の職能、アーカイブ、多分野との協働をはじめ、デザインと技術、市民との関係性を知ることでもできる。

現在は、環境科学と統合するグリーンインフラと美しい風景を整える、気候変動と地域創成の時代だ。水と緑のネットワークでヒートアイランド化した都市を冷やし、多様なみどりの機能の1つとして、本多静六博士は防潮林や居久根の重要性を三陸地震直後に説いている。

私は学生や卒業生とともにグリーンインフラに資する技術、震災復興などを地域の方々と企業と連携して取り組んだり

もし、多くの学びを得ている。日造協ニュース2023年4月号に「造園をポジティブに学び、楽しむ」と題して、造園CPDの取り組みをお薦めした。

作品選集の閲読でもCPD単位が取得できる。これからも皆さんの学びなどに少しでも役立てよう取り組みたい。



講 評

(公社)日本造園学会会長 千葉大学大学院園芸学研究院 教授 柳井 重人

マネジメントが専門と紹介していただいたので、その視点で考えてみたい。

1つ目はマネジメントで一番重要な目的や目標の達成。2つ目はマネジメントが大切にしているプロセス。造園は企画・構想・設計・施工・維持管理・運営などのプロセスがある。3つ目は現在の造園はいろいろな方々と合意形成をしたり協働することが多く、別の分野とのパートナーシップをどうしているか。4つ目は

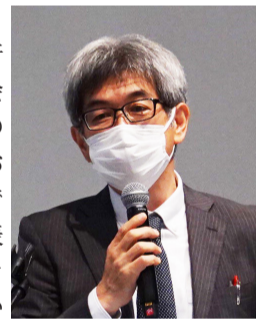
技術の継続・継承性、その体制ができていないか。5つ目は地域性だ。

植栽基盤調査は植える直前の調査や調査が反映されないなど、PDCAをきちんとすることが大切であることを示した発表で、北国の屋上緑化は積雪という制約の中で、どう継続していくか、培った技術をどう継承していくかが課題だ。新潟のフェスタはパートナーシップ、目標は共有しているが、一方で専門学校との協

働など、それがどのような効果を生んだか、その結果を知りたいと思った。鎮守の森はプロセスの中で整備計画書が力を持った一例だが、合意形成がどのような形でなされたかに興味を湧いた。また、長期計画は技術の継承にも関係し、ドローンを飛ばした診断など、技術の進展をどう取り入れるかも重要だ。ハッ場ダムは目的が設定され、原因を調査、検討、施工して、モニタリングも行われていて、分かりやすかった。

これまで学会の技術報告集は作品選集と交互で隔年だったが、新しい技術が

生まれる中で、年に3回の発行になった。学会も社会変化への対応を図っており、全国大会ではポスター発表やミニフォーラムなど、いろいろな交流の機会を設け、日造協と連携したフォーラムも行っている。学会は2025年に100周年を迎える。引き続き協力と活用をいただきたいと思う。



学会の目・眼・芽 第136回

造園学会・学術刊行物の今後

(公社)日本造園学会理事 筑波大学芸術系 准教授 伊藤 弘

6月17日から18日にかけて、南九州大学におきまして日本造園学会全国大会が開催され、盛況のうちに終わりました。



日本造園学会全国大会では例年、エクスカッション・学生コンペ・シンポジウム・ポスター発表・研究発表・ミニフォーラム・交流会が行われています。

今年度の全国大会では、学会が各種知見を社会に発信する媒体である学術刊行物に関する学術タスクフォーラム「学術刊行物の課題と今後の方向性」も行われました。

2023年現在、学会では「ランドスケープ研究」1～4号と5号(研

究発表論文)・ランドスケープ研究オンライン論文集・ランドスケープ技術報告・作品選集と、英文誌URPR (Urban & Regional Planning Review)・LEE (Landscape and Ecological Engineering) を刊行しています。

実務に携わっている会員が最も多い造園学会において、こうした学術刊行物をどのように活かしていくべきか、そのためには発行形態や査読方式、発表形式をどのようにすればいいのかについて、会員の皆さんから広く意見をうかがおうという趣旨で行いました。



例えば、論文集などは紙の冊子体は頒布せずに全てオンラインで配信している他学会もあります。

オンラインで配信すると、自分の知りたい情報に効率的にたどり着くことができ、一見効率的に思えるのですが、これは逆に言えば、各自の知識や認識の範囲内にある情報にしか触れることができない危険性も孕んでおり、新たな発見や直感を生み出すことに結びつかないことも考えられるのは言うまでもないことです。



作品選集は紙の冊子体需要が一定数ある一方、技術報告および学術論文については、色々なご意見をいただいております。先に述べた大会での発表含めて特定の方向性に収れんするというよりもむしろ、色々な可能性および発展性を有していると感じました。



技術報告集は、原稿の速報性に重きを置いて既にオンラインで発行するようになっており、ご覧いただいた方も

いらっしゃると思います。

一方、学術論文については、ややハードルが高いと感じている方もいるかもしれません。

ただ、基礎科学の成果を実用的に使えるようにすることを目指す応用学問である造園学において、学術論文を技術と切り離すことはできず、また、理論だけではその意義が希薄になってしまうと考えております。

日本の現場における取り組みを世界に発信していく必要もあり、その活かし方については未だ検討する必要があると考えています。



学術刊行物についてはまだ検討している最中であり、皆様からのご意見も学会までいただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

山口県
ふるさと自慢

我が故郷、錦帯橋と岩国城



錦帯橋は主要な部分に釘が1本も使われていない世界でも珍しい木造アーチ橋
山口県岩国市は私が生まれた故郷であり、歴史のある町です。

進学と就職で一時岩国を離れ、転職にて故郷に戻って参りました。しかし戻って来たからこそ幼少の頃とは別の目線にて魅力を感じることが増えました。

その岩国で魅力的な箇所を紹介

させていただきます。

◆
錦帯橋は、1673年に創建された橋で、当時の岩国藩主吉川広嘉により、主要な構造部分は釘が1本も使われない世界的にも珍しい木造アーチ橋です。

錦帯橋を渡った先にも、シロヘビ館、テレビで取り上げられた30



錦帯橋付近の山頂に見える岩国城



ライトアップされた錦帯橋

種類以上のソフトクリームを扱う佐々木屋小次郎商店など、魅力がたくさんあります。

◆
錦帯橋付近の山頂には吉川家により築城された岩国城があり、遠目からも目立つので錦帯橋を渡った後に、岩国城へ行くのが鉄板ルートで、ロープウェイと登山道があります。

また、錦帯橋は、時期によっては夜間にライトアップが行われ絶景です。

若い頃は余り気にしていませんでしたが、先人たちが積み重ねてきたことを今

になって実感しています。

◆
岩国は日本酒造りが盛んな地域で、世界的に知られている瀬祭を始め、金雀、雁木、五橋、村重は岩国発祥の地酒で有名です。寄られた際に一杯いかがですか？

2023年を迎える今年度、創建350年を迎えて世界文化遺産登録の機運も高まっており、各種イベントも控えております。

この機会にぜひ岩国にお越し下さい！

山口県支部 森口慶太 (株西園)

事務局の動き

- 【8月】
- 1(火)・第18回若年者ものづくり競技大会 ~8/2
 - ・広報活動部会
 - 3(木)・グリーンインフラ官民連携プラットフォーム運営委員会
 - 9(水)・技術・技能・調査部会
 - ・建専連 企画委員会
 - 31(木)・植栽基盤整備ハンドブック編集委員会
 - ・秋田県立金足農業高等学校出前講座
- 【9月】
- 5(火)・広報活動部会
 - 7(木)・運営会議
 - 8(金)・全国事務局連絡会議・懇談会
 - 12(火)・造園技術フォーラム部会
 - 14(木)・緑地樹木剪定士認定委員会
 - 17(日)・植栽基盤診断士認定試験(学科試験)
 - ・AIPH 年次総会~9/21
 - 21(木)・植栽基盤診断士認定試験(学科試験)採点
 - 22(金)・植栽基盤診断士認定試験(学科試験)採点
 - 予備日
 - 28(木)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
 - 29(金)・女性活躍推進部会
 - ・地域リーダーズ・女性部会 高梨顧問と語る会

委員会等の活動

- 植栽基盤診断士認定委員会試験部会
- 7/7 植栽基盤診断士補の修了試験の採点と結果を確認、診断士学科試験の問題について検討
- 女性活躍推進部会
- 7/10 富山県立中央農業高等学校出前講座を実施
- 植栽基盤診断士認定委員会
- 7/14 植栽基盤診断士補の修了試験の合格判定、診断士学科試験の問題について審議
- 登録造園基幹技能者講習委員会
- 7/20 今年度の開催計画、事務規程の変更、試験問題について審議
- 国際委員会(全国)
- 7/24 前会議(2022年11月)以降の活動について報告し、本年度のAIPHほか国際団体に関する活動、また横浜国際園芸博覧会について検討
- 安全部会
- 7/25 「造園安全衛生管理の手引き」の改訂について検討し、建防災との意見交換についても審議内容を整理
- 女性活躍推進部会
- 7/25 岐阜県立国際園芸アカデミー出前講座を実施
- 造園フェスティバル推進部会
- 7/27 本年度の開催についてマニュアルの最終案とツールの発注数を確認

【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格でご購入希望の方は URL (<http://shop.kousinen.com/>) よりお申込ください。



編集後記 連日の報道等で街路樹や植樹帯が世間の注目を浴びていますね。これを機に全国の荒れている植樹帯が植物で満たされることを願っています。

2023年度登録造園基幹技能者講習の開催案内

登録造園基幹技能者講習は、日造協と造園連の2団体が登録講習機関として共同で実施するもので、講習を修了した登録造園基幹技能者は、経営事項審査での加点評価、「総合評価落札方式」での評価優遇、元請企業の「優良技能者認定制度」などに活用されています。

さらに、建設キャリアアップシステムにおいては、能力評価基準の最高位(レベル4)要件の資格として位置づけられています。

2020年度に受講資格要件を見直し、「1級造園施工管理技士」でも受講できるようになりました。

建設工の品質確保や安全管理などが社会的にも大きな関心が寄せられている中、登録造園基幹技能者への期待はますます高まっていますので、ぜひこの機会に受講をご検討ください。

【受講資格】以下のすべての条件を満たすこと。

- ① 1級造園技能士または1級造園施工管理技士の資格を有すること。
- ② 造園工事業に関し10年以上の実務経験を有すること。
- ③ 職長経験が3年以上※であること。(※職長教育修了証の写しを添付)

【申込期間】2023年9月1日~各会場の開催日の2週間前まで(消印有効)

【受講料】44,000円(税込)
※詳しくは日造協のホームページをご覧ください。<https://www.jalc.or.jp/kikan ginou/kikanginou02.html#page02>

【助成金のご案内】

「登録基幹技能者認定講習」は、「人材開発支援助成金」の対象となっており、中小建設事業主は助成を受けられます。詳しくは、事業主の所在地を管轄する都道府県労働局、またはハローワークにご確認下さい。

日程と開催会場

開催地	日程	会場名	定員
岡山	2023年10月26日(木)~27日(金)	日建学院岡山城(岡山市北区大供3-1-18 KSB会館5F)	30名
大阪	2023年11月30日(木)~12月1日(金)	大阪科学技術センター 404号室(大阪市西区靫本町1-8-4)	60名
福岡	2024年1月11日(木)~12日(金)	福岡県中小企業振興センター 202(福岡市博多区吉塚本町9-15)	50名
東京	2024年1月25日(木)~26日(金)	全水道会館 4階(文京区本郷1-4-1)	100名